

NO. 60-8

鋼橋技術研究会

防音構造研究部会

昭和60年度報告書

昭和61年3月

1. 研究活動の概要

防音構造研究部会では、本邦における騒音および振動による被害の実態を把握し、且つこれに対する研究の動向およびその成果を調査し、さらに、その結果講じられた対策を知ることにより、今後の防音防振対策のあるべき姿を見極めようとする活動を活動の目的に設定した。

この目的に沿った活動の原点は文献の調査であるとの認識の下に、国内の騒音および振動に関連した報告、研究論文を抄録することとし、各委員が分担してこの作業に当たった結果、300編近くの論文を網羅することができた。本部会では、会員が文献を利用する際の便を考慮し、これをパソコンのMS-DOS管理下のデータベースの形にしてこれを保存し、約30語のキーワードを設けてこれによる検索を可能とした。

ここでは、蒐集した論文を、鉄道橋に関するものと道路橋に関するものとに大別して整理し、それぞれ、生じた被害、研究、対策の動向に関してまとめた結果を報告する。

1. 研究活動の概要

防音構造研究部会では、本邦における騒音および振動による被害の実態を把握し、且つこれに対する研究の動向およびその成果を調査し、さらに、その結果講じられた対策を知ることにより、今後の防音防振対策のあるべき姿を見極めようとする活動を活動の目的に設定した。

この目的に沿った活動の原点は文献の調査であるとの認識の下に、国内の騒音および振動に関連した報告、研究論文を抄録することとし、昭和51年1月～昭和60年12月発行の文献を対象とすることにした。

各委員が分担してこの作業に当たった結果、300編近くの論文を網羅することができた。本部会では、会員が文献を利用する際の便を考慮し、これをパソコンのMS-DOS管理下のデータベースの形にしてこれを保存し、約30語のキーワードを設けてこれによる検索を可能とした。

ここでは、蒐集した論文を、鉄道橋に関するものと道路橋に関するものとは大別して整理し、それぞれ、生じた被害、研究、対策の動向に関してまとめた結果を報告する。